

丹波小
学校便り



丹波の流れ



発行日
令和5年11月9日
第5号
文責：芹川

2学期も中盤 五感を鍛える秋

視覚・聴覚・臭覚・味覚・触覚

「五感」を鍛えるということは、**脳の活性化**にも繋がり、よい影響があるそうです。

- ・アイデアがひらめく直観力
- ・危険を回避する能力
- ・相手の気持ちを想う力
- ・生きていくうえで欠かせない情緒的な感情

子どもたちの発達の始まりは、お母さんのおなかの中。指をしゃぶったり、羊水をなめたり、外の声を聞いたりすることです。すでに五感を鍛え始めています。体から感じるすべての事が脳へと伝わり、神経回路が枝をぐんぐんと伸ばすように発達していきます。これから始まる秋という季節は、この五感を鍛えるのにはもってこいの季節ですね。

紅葉が日々変化する様を見（**視覚**）、秋の夜長に奏でる虫たちの音色を聴いたり、よい音楽に触れたり（**聴覚**）、おいしいものを沢山食べる（**味覚**）。魚を焼いている匂いから秋を感じたり（**臭覚**）、水道から出る水の冷たさ（**触覚**）に秋を感じます。このように、日々の何気ないことではありますが、そのちょっとした違いに気持ちをよせることができるかどうか、が、脳の活性化に繋がるのではないのでしょうか。

子どもたちにも丹波山で生活しているからこそ感じる日々の感覚を大事に育ててほしいと思います。

4年生「水の旅」の学習

9月27日（水）。「水の旅」の学習をしている4年生が、小菅小学校の4年生と共に小河内ダムや羽村取水堰などを見学に行きました。

丹波山は、「水の旅のはじまりの場」でもあります。丹波山で生まれた水がどのように流れ、活用されているのか、の学習です。関係者以外は入



れない小河内ダムの中に入れてもらい、暗くて、ひんやりとした中を歩いてまわりました。また、浄水場では、何段階にも分けて水が飲料水になっていく施設を見て、いろいろな知恵があるのだと感じました。4年生の2人がこの学びのまとめとして、「水の旅すごろく」を作成しました。実際に行ったからこそ『すごろく』ができています。また、普段交流の少ない小菅小学校の4年生とも一日を過ごし、少しずつ話ができて、帰る頃には仲良くなっている様子も見られました。





丹波小中運動会



新型コロナウイルスが5類になったことを受け、

今年は例年通りの小中運動会が9月9日に開催されました。子どもたちはこの日のために、毎日一生懸命練習を重ねてきました。当日は、途中、雨が降ってくる場面もありましたが、児童・生徒の思いが伝わったのか最後まで実施することができました。児童・生徒のきびきびとした態度や競技・演技に全力を傾ける姿勢、真剣な表情は、胸を熱くするほど感動するものでした。また、見ている観客のみなさんのあたたかな声援や拍手に包まれ、和やかな雰囲気の中、実施することができました。また、保育所のかわいらしい園児も小さな体を精一杯大きく使って競技・演技をがんばってくれました。丹波山村で育つ子どもたちは、多くの方に生まれ健全に成長していることが再認識できました。

丹波山村の「美しいもの」を沢山見ることができました。当日、参加して下さった皆さま、本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。



みんな
いい笑顔
ステキです。

ありがとう
ございます



秋季校外学習

10月6日（金）の校外学習。

低学年は勝沼図書館と金川の森公園に行きました。勝沼図書館は全国の図書館の中で表彰を受けるほどの立派な図書館でした。金川の森では、おうちの方がつくってくださったおいしいお弁当を食べ、その後、長い滑り台を滑ったり、アスレチックで遊んだり、また、授業で使うどんぐりやまつぼっくりを拾ったりのびのびと過ごしました。

高学年は、忍野湧水の里水族館に行き、たくさんの魚を見てきました。5・6年生は、「修学旅行で行った水族館とは違う魚がいたよ」と帰ってきてから教えてくれました。その後、富士山ミュージアムに行き、富士山信仰のことや富士山のはじまりなどを学びました。

たくさんの施設を見学し、たくさんの方にお世話になりました。

いつもとは違う環境で、学習をすることが子どもたちの成長になります。当日は、全員が参加することができました。体調管理やおいしいお弁当を作ってくださった保護者のみなさま、ありがとうございました。

詳細は、HPをご覧ください。




高学年

富士湧水の里水族館～富士山ミュージアム



ふじさん記念写真

2023.10.6

 ふじさんミュージアム

低学年 勝沼図書館



金川の森



丹管音楽祭

10月27日（金）

4年ぶりに参集となって丹管音楽祭が開催されました。この丹管音楽祭も第58回を迎えます。昨年まではコロナの影響もあり、オンラインでお互いの演奏を聴きあう形で続いてきました。以前のように地域の皆様にお声掛けすることはまだできませんでしたが、少しずつ、以前のような形、そして、現状にあった形を求めて音楽会を継続しています。

丹管の4校が集まり、お互いが練習してきた成果を披露しました。情報機器の発達により、オンラインでも開催はできます。しかし、『音楽』というのは、生き物です。一瞬で消えてなくなってしまうものなのです。ですから、価値があります。目で見て、耳から音を聴いて、音の振動を肌で感じる。そして、演奏者の緊張感や演奏に対する「思い」などを同じ空間で『共有すること』に価値があります。幼いころから生の演奏に触れ、自らも演奏することで表現する経験をもつことは人として成長していく大事な機会です。

このような機会を大事に思える丹管地域は、素晴らしい地域だと思います。子どもたちは、とても素晴らしい演奏をしました。聞く態度もよかったです。

